

宿観音寺 「明治八年六字名号塔」について

整理番号	題額	題額揮毫	碑記撰文	碑記揮毫
浦和〇七	南無阿弥陀佛	行譽宏善	立譽行誠	人譽循誘

鐫刻	撰文建碑年	住所	場所	備考
—	一八七五・明治八	桜区宿	観音寺	

一. はじめに

本石碑は、越谷安国寺の僧宏善上人を中心とする念仏結社が、足立郡宿村（現さいたま市桜区宿）の観音寺住玄舟上人の依頼により、観音寺に建立した六字名号塔である。

○写真1 石碑正面



○写真2 石碑背面





二. 翻刻並に訳注

■翻刻

*石碑本体

(正面)

◎題額

安國寺二十五世

南無阿弥陀佛

宏善◇

(背面)

◎碑記

宏善上人號乘蓮社行譽稱阿住武藏國大泊里安國寺凡五十又七年單稱念佛行者也白衣弟子榎木善左衛門曾與同門數千餘名同盟結社社名和合頃社友同志建名號塔於埼玉縣下第貳拾壹區足立郡宿邑觀音寺寺主顛譽玄舟所庶幾也淺草九品寺主隆長來話其事予合掌言曰真是利物偏增之實効也不可不記乃記之

明治乙亥 十月東京回向院住職僧行誠◆◆

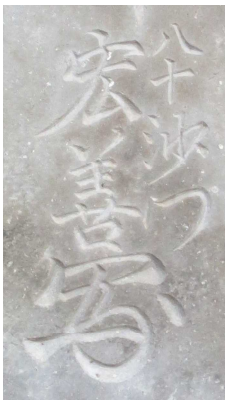
弟子僧循誘 欽書□

◇は花押を刻したもので「写」。宏善の花押は、同寺のもうひとつの名号字塔や、越谷安国寺の六字名号塔にも見られる。

【観音寺明治八年六字名号塔の宏善の花押】



【観音寺明治十七年六字名号塔の宏善の花押】



【安国寺慶応三年六字名号塔の宏善の花押】



- ・◆◆は篆文の落款を刻したものの。
- ・一文字目は「晋」で、「篆書字体データベース」の「選集漢印分韻」に類似形がある。二文字目は「阿」で、「篆書字体データベース」の「朝陽閣字鑑」に類似形がある。「晋阿」は、行誠の字。
- ・□は楷書の落款を刻したものの。「誘」を□で囲む。循誘の名の一部。

●異体字

- 號 號。 ○凡 凡。 ○塔 塔。 ○埵 埵。 ○類 類。 ○夷 夷。
- 京 京。

***台座**
(正面)

講 合 和 *

*実際の文字は、上部が「禾」で、下部が「口」。「和」の異体字。

(背面)

・中央に左記を大書。

再建

・左部分に左記を小書。

足立郡本村新田

請負人 横田重藏

大里郡小八ツ林村

石工 堀紋三

(左側面) (右側面)

・人名(戒名)を列記。

■ 訳注

***石碑本体**

● 本文(いわゆる旧字体とし、一行毎に改行した)

◎ 題額

安國寺二十五世

南無阿弥陀

宏善「寫」

◎ 碑記

宏善上人、號乘蓮社行譽稱阿。

住武藏國大泊里安國寺、凡五十又七年、單稱念佛行者也。

白衣弟子榎木善左衛門、曾與同門數千餘名、同盟結社。

社名和合。

頃、社友同志、建名號塔於埼玉縣下第貳拾壹區足立郡宿邑觀音寺。寺主願譽玄舟所庶幾也。

浅草九品寺主隆長、來話其事。

予合掌言、曰、眞是利物偏増之實効也。

不可不記、乃記之

明治乙亥十月

東京回向院住職僧行誠「晉阿」

弟子僧循誘欽書「誘」

●訓詁

宏善上人、號は乘蓮社行譽稱阿なり。

武蔵國大泊里安國寺に住たること、凡そ五十又七年、單へひとに念佛行を稱する者なり。

白衣弟子榎木善左衛門、曾て同門數千餘名と與に、同盟結社す。社名は和合なり。

頃、社友同志、名號塔を埼玉縣下第貳拾壹區足立郡宿邑觀音寺に建つ。

寺主願譽玄舟の庶幾こいねがふ所なり。

浅草九品寺主隆長、來りて其の事を話す。

予合掌し言ひて、曰く、

「眞に是れ、利物偏増の實効なり。記さざるべからず」と。

乃ち之を記す。

明治乙亥十月。

東京回向院住職僧行誠。「晉阿」

弟子の僧循誘欽みて書す。「誘」

●人物

○宏善上人 現越谷市大泊安國寺の「安國寺歴代住職之墓碑」に「二五世 行譽宏善和尚

明治二十五年一月十四日寂」とある。『越谷風土記』によれば、宏善上人は、徳望が高く、「幕末から明治にかけて布教かたがた各地を行脚し人びとから慕われ」ており、「明治十四年に示寂したが、各地多くの人びとはその遺徳を偲び、石垣づくりの壇上に青銅製の連台に静座した宏善上人の彫像を祀った墓を、安國寺境内に建立している」とある（現存）。

○榎本善左衛門 不詳。

○願譽玄舟 さいたま市桜区宿の觀音寺境内にある「觀音寺歴代上人」碑に「十六世 誓蓮社願譽上人讚阿乘惠玄舟和尚 明治卅年九月 南埼玉郡大泊安國寺へ埋葬ス」とあり、「安國寺歴代住職之墓碑」に「二八世 願譽玄舟和尚 大正三年九月二十日寂」とある。彼の事跡と評価は、觀音寺に立つ「玄舟顕彰の碑」に詳しい。

○行誠 福田 行誠。文化六（二八〇九）年（○文化三（一八〇六）年）から明治二一（一八八八年）。幼名は大堂、字は晋阿。号は建蓮社立誓。明治維新时期に神仏分離や廃仏毀釈で混乱した日本仏教界を指導し、「明治第一の高僧」と称された。慶応二（一八六六）年に両国回向院住職となり、明治維新後、仏教諸宗派が連立して結成した「諸宗同徳会盟」の中心指導社として活躍。明治六（一八七三）年、神仏合併によって設立された大教院の教頭をつとめた。同九（一八七六）年には小石川伝通院住職、同一二（一八七九）年に増上

寺住職・浄土宗東部管長、同二〇（一八八七）には知恩院住職と要職を歴任した。

○循誘 福田循誘。嘉永二年（一八四九）から大正四年（一九一五）。号は善蓮社人譽。武蔵国小石川生まれ。幼名は錦之丞。安政六年（一八五九）、福田行誠が住す小石川伝通院清浄心院で得度し、行誠の師慧澄より循誘の名を授かった。行誠に常随して仕え、のちに法灯を継ぎ福田姓を名乗った。明治一七年に深川本誓寺の住職となり、同二一年行誠が亡くなると、不去来庵を建立し行誠の遺物を多数託した。能書家として名高く、多くの碑文等に手跡が残っている。

●注

- 大泊里安国寺 現越谷市大泊。大龍山東光院。熊谷直実の修行草庵であったという言い伝えがあるが、紀州国熊野大泊村安国寺の住職「誓譽専故人」が、諸国行脚のおり、康安元（一三六一）年に当地に寺院を再興し、故郷と同じ地名を当寺に称したことが始まりといわれている。「人物」注の宏善上人が著名。
- 念佛行者 念仏を修行するもの。
- 白衣弟子 在家の信者の弟子。
- 名号塔 六字名号塔の略。「南無阿弥陀仏」の六文字を記した石碑。
- 利物 衆生を利益し、救済すること。
- 偏増 偏は、もつとも、すこぶる。偏増で、すこぶる増す。
- 實効 実際の効果。
- 明治乙亥 八年、西暦一八七五年。

●口語訳（小見出しは訳者が便宜的につけたもの）

【宏善上人と念仏結社】

宏善上人、その号は乗蓮社行誉称阿である。

武蔵の国大泊村の安国寺に住寺として、五十七年つとめたが、ひとえに念仏行を実践するものである。

在家信者である榎木善左衛門は、かつて同門のもの数千名あまりとともに、念仏同盟を結社した。その社名は和合といった。

【観音寺での名号塔の建立】

このごろ、社友や同志が、六字名号塔を埼玉県第十一区足立郡宿村の観音寺に建てた。寺主である願誉玄舟の願いに応じたものである。

【塔建立についての評価】

浅草九品寺主である隆長が、私のところへ来て、このことを話してくれた。

私は合掌しこう言った、

「これはまことに、衆生を利益し救済することを、とても増大させる、実際の効果がある事業である。このことについて、ぜひとも記しておくべきだ」と。

そこでここにその顛末を記すものである。

【記録】

明治八年乙亥の歳十月。

東京回向院の住職である僧行誠が撰文した。〔晉阿〕

弟子の僧循誘が飲んで書した。〔誘〕

三. 資料

(一) 「新編武蔵風土記稿」 卷一五四 足立郡之二十 植田谷領

◎ 宿村・寺院

○ 観音寺

「寺領八石の御朱印を賜はれり、浄土宗、鴻巣勝願寺の末、開山の僧を玉念と云、寂年は詳ならず、本尊三尊彌陀を安ぜり、行基の作と云」

(二) 「武蔵国郡村誌」 卷之十二

◎ 宿村・仏寺

○ 観音寺

「縦四十六間横廿五間面積千百六十八坪村の北方にあり浄土宗本郡鴻巣宿勝願寺末派なり」

四. 主な参考資料

① 翻刻

・ なし

② 論文など

・ 越谷市教育委員会編『越谷風土記』（越谷市教育委員会、二〇〇二年）

・ 人文学オープンデータ共同利用センター「篆書字体データベース検索」

以上

二〇二四年一月 薄井俊二訳す